

二エース専修

専修大学ホームページ

https://www.senshu-u.ac.jp/

毎月1回15日発行
発行所
専修大学広報課
〒101-8425
東京都千代田区
神田神保町3-8
☎03-3265-5819(直)

主なニュース

- ② 関東大震災から100年 復興・防災を考えるシンポジウム……沖縄で学生部セミナー／タイで東南アジア・スタディツアー……【専修国際人】
- ③ NZ法弁護士 佐藤慎平さん……
- ④ 石巻専修大学 石巻祭……



▲海外留学・国際交流フェア

2023 多摩区3大学 コンサート
～水と緑と学びのまち～

【日時】11月11日(土) 14時開演(13時30分開場)
【場所】川崎市多摩市民館2階大ホール
【定員】当日先着900人 ※申し込み不要 全席自由
【出演】専修大学混声合唱団カッパコーラス部ほか

主催・多摩区・3大学連携協議会
お問い合わせ 多摩区役所企画課
TEL 044・935・3147

佐々木学長 松木理事長

ベトナムを訪問

日越関係50年記念 国際シンポジウムに参加

佐々木重人学長と松木健一理事長が、9月13日から17日にかけて、ベトナムの首都ハノイを訪問した。主要な目的は、ベトナム社会科学学院(VASS) 東北アジア研究所(INAS)と専修大学社会科学研究所、国際協力機構(JICA)、国際交流基金が共催して行った国際シンポジウム「日越関係50年…過去・現在・将来」に出席するためである。佐々木学長と松木理事長は、ベトナム国家大学(VNU) ハノイ人文社会科学大学(USSH) 副学長との会見、VASS院長との会見、民族学博物館の見学など多忙な日程をこなした。



シンポジウム2日目開会式で



開会式であいさつする佐々木学長

2023年は日越外交関係樹立50周年にあたり、14、15日に開催された国際シンポジウムでは、日越両国から20を超える研究報告がなされ、両国の研究協力と相互理解に寄与した。

開会式において佐々木学長は日本側の代表の一人として、駐越日本大使らに続いてあいさつを行った。日越友好の意義を述べ、本国際シンポジウムの成功と、日越両国の友好関係のますますの発展を祝した。

佐々木学長と松木理事長は14日午後、USSHのライク・オック・カン副学長や、USSH東洋学部日本学科の教員らとの会見に臨んだ。本学とUSSHとの提携関係は25年以上にわたる。会見では協定を結ぶ際に担当者として来越した松木理事長の経験などが披露された。

15日は社研とVASS・INASが共催し、多くの本学教員が研究報告を行った国際シンポジウムに参加した。シンポジウムの後には歓迎レセプションが行われ、その冒頭に松木理事長が10年前に行われた記念シンポジウムに参加した経験に触れて、VASS・INASと専修大学の交流の深さを述べた。

16日にはVASSのフアン・チー・ヒュー院長、チャン・ホアン・ロン・INAS所長代理、グエン・ドック・ビン社会学研究所(IOS)所長などVASSの幹部との会見に臨んだ。VASSは人文社会科学と国際関係全般に関する学術的な研究を行うとともに、政府に提言や助言を行う巨大な政府系シンクタンクである。10年以上にわたるINASと社研、IOSと専修大学の学長、理事長がそろうUSSHやVASSなどベトナムを代表する研究・教育機関を訪問することの意義は大きく、現在急速な発展を遂げているベトナムとの国際交流のなご一層の深化が期待される。



レセプションであいさつする松木理事長



ベトナム民族学博物館の屋外展示家屋の前で、VASS 副院長、民族学博物館館長らと

文科省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」に認定



対象：全学部(2022年度以降入学者)
認定有効期限：2028年3月31日



対象：ネットワーク情報学部(2019年度以降入学者)
認定有効期限：2028年3月31日

本学が実施している教育プログラム「Siデータサイエンス教育プログラム」が2023年度文科省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」に認定された。

認定を受けたのは全学部全学科の「基礎リテラシーレベル」と、ネットワーク情報学部で実施している「応用基礎レベル」。

このプログラムは、近年急速に進みつつあるビッグデータとAI(人工知能)が駆動する超スマート社会を生き抜く力を身につけ、社会の諸課題を解決する手段の一つを養うことを目的としている。これにより、本学が標榜する「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」の一翼を担う。

Siデータサイエンス教育プログラムは2022年度の全学部新入生を対象に、基礎的な知識を学ぶ「基礎リテラシーレベル」がスタート。同時にネットワーク情報学部では、更に深く学ぶ「応用基礎レベル」を開講。今年度は全学部で応用基礎レベルが始まり、来年度、文科省に申請を予定している。

生田キャンパス10号館4階「ホワイエ」

「BizReach CAMPUS LOUNGE」



本学は、株式会社ビズリーチ(渋谷区)と生田キャンパス10号館「ホワイエ」の施設命名権(ネーミングライツ)の事業契約を結んだ。施設の名前は「BizReach CAMPUS LOUNGE」。本学として初めてのネーミングライツ施設になり、ビズリーチ側も私大との締結は初めて。

「BizReach CAMPUS LOUNGE」は10号館4階にあり、自習や飲食、コミュニケーションなどで多くの学生が利用している。

ネーミングライツ・パートナーとなるビズリーチは、OB・OG訪問ネットワークサービスの「ビズリーチ・キャンパス」や転職サイトの「ビズリーチ」など、働き方の未来を支えるさまざまなインターネットサービスを展開。本学は今年7月、「ビズリーチ・キャンパス for 専修大学」を導入。それぞれの学生の志向性にあった卒業生を検索、オンラインでOB・OG訪問を行うことができ、低年次から社会人の先輩の話を聞ける。

「BizReach CAMPUS LOUNGE」の愛称を通じて、ビズリーチ・キャンパスの周知をはかり、OB・OGとの出会いの創出によって新たな人生の選択肢を知るきっかけを提供することを目指し、本契約に至った。

10月6日にはビズリーチの担当が生田キャンパスを訪問。佐々木重人学長、閉念文博キャリアセンター事務部長らと懇談した。佐々木学長は「学生には夢の実現のため、このラウンジをチャレンジするためのきっかけの場所としてほしい」と話した。

左から閉念キャリアセンター事務部長、佐々木学長、ビズリーチの担当者

